

科学技術イノベーション官民投資拡大推進費 に対する考え方

平成29年 2月23日

経済産業省 産業技術環境局

SIPの重要性の再確認

- 科学技術政策の司令塔としてのC S T Iの役割を有効に発揮する観点から、新型推進費のみならず、平成31年度以降も継続することになったS I Pにもしっかりと取り組むことが重要。
- ただし、S I Pの良い点、課題となっている点をしっかりと評価するとともに、特に出口省庁との連携を深めることが重要。
- 新型推進費のターゲット領域設定や対象施策の選定に当たっては、府省連携で行うS I Pとの連携・役割分担を踏まえることが肝要。

S I Pによる効果的な産学官連携、府省連携

課題解決型のテーマ設定と、PDを中心としたマネジメント体制により、個別の省庁では困難であった各省横断による事業実施体制や産学官連携がS I Pでは効果的に実施されている。これまでの経験を踏まえて、良い点、改善すべき点（出口省庁との連携、マネジメント業務の適正化等）をしっかりと評価し、新型推進費や今後のS I Pの制度設計・テーマ設定に活かすことが必要。

S I Pと新型推進費との連携・役割分担

31年度以降も継続されるS I Pと新型推進費を別々に捉えるのではなく、新型推進費のターゲット領域の設定及び対象施策の選定、さらには今後のS I Pのテーマの選定を、それぞれの特性を踏まえつつも、できる限り一体的に捉えるような方向性を模索すべき。

重点領域に対する考え方

- 民間研究開発投資を誘発するために、Society5.0（第4次産業革命）のコア技術であるAI、IoT、ロボットとそれらの社会実装技術及び出口となる農業、バイオ、健康・医療、インフラ分野、製造技術等は、府省連携で取り組むべき技術分野の一つと認識。
- 「人工知能技術戦略会議」が策定するロードマップの実現に向けたAI社会実装研究を戦略的に進め、産業・社会の課題解決を目指し、成功例を次々と作り出すことで、民間研究開発投資の誘発に繋がることを期待。

Society5.0（第4次産業革命）における社会実装技術

Society5.0（第4次産業革命）の実現に向けては、AI、IoT、ロボット、バイオ等の技術の高度化は不可欠。その社会実装先となる農業、健康・医療、インフラ技術、製造技術は、府省連携で取り組むべき分野の一つ。

（ 例 ：五感センサーとAI融合による食品の輸出力強化

例 ：健康・医療分野や建設・造船分野のAIクラウド活用研究

AI戦略会議のロードマップを踏まえたAI社会実装研究の推進と民間投資の誘発

総務省、文科省、経産省を中心とする「人工知能技術戦略会議」が、ロードマップの作成など、同分野において強いリーダーシップを発揮しているところ。今後取りまとめられるロードマップを踏まえて、産業界のニーズだけでなく、3センター（産総研等）が様々な社会的課題に係る農水省、厚労省、国交省等によるAI活用を支える研究を行うことで、Society5.0（第4次産業革命）の具体的な成功事例を次々に輩出し、関連分野の民間研究開発投資の誘発に繋がることを期待。

懸念点

- ・当省のNEDO事業にはPMがいるため、領域統括を置くと、屋上屋を架す形になる懸念あり。